

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
清風クラブ2階研修室（渋谷区上原3-32-6）
会場整理費：700円 問合せ：03-3465-0671

9月9日（土） この世とあの世—なぜ生まれ、老い、死ぬのか [中野サンプラザ]
田上太秀 先生 駒澤大学名誉教授

9月23日（土） 国民の祝日のため休会

10月14日（土） 「あらためての仏教入門」—ブツダからメッセージが届いています [清風クラブ]
黒川文子 先生 東方学院講師

10月28日（土） この世とあの世—大悲心による世界の二重化 [中野サンプラザ]
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

11月10日（金）※ この世とあの世 [中野サンプラザ]
南直哉 先生 曹洞宗霊泉寺住職
※第2金曜日の平日開催となりますのでご注意ください

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

9月15日（金） 「大事と小事」
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

11月17日（金） 「地獄を拝む思想—白隠禅師と法華経」
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

9月20日（水） 「葬送儀礼」と「霊魂観」をめぐって—日本の現況
赤池憲昭 先生 愛知学院大学名誉教授

11月15日（水） 演題未定
林淳 先生 愛知学院大学教授

いのち尊し

静坐と聞法—小生の恵まれし道

名倉 幹

（真宗大谷派僧侶、北米開教使）

第5号
いのち尊し
平成29年9月1日
一般社団法人 在家仏教協会
〒151-0064 東京都渋谷区上原3-32-6
TEL 03-3465-0671
FAX 03-3465-0672

私は今から約三十年前、大学生の時に父が病気で倒れて急逝したことが機縁となり、あるお婆さんに出遇ったことがそもも仏縁の始まりでした。「この方はどんな逆境にあっても前に進んでいける人やなー」と、まさに金剛のようになたくましい心の持ち主のように感じられました。

その後、このお婆さんのバックボーンは親鸞聖人の御教えであるということがはつきりとわかるようになりまし。そして、あるときこうおっしゃいました。

「私は何よりも仏法聴聞を最優先に一筋に歩んできました。仏教はどえらいもんです。真剣に聞いていくことが大事です。特に蜂屋賢喜代（はちや・よしきよ）という大谷派の深い先生に絶対の信を置いて参りました」

そのようなことから、当時銀行勤めというサラリーマン生活を始めていた私は、自らの仕事や母との葛藤等々、なかなか解決できない問題を抱えながら悶々と暮らしていましたので、まさに渴いたものが水を求めるように、自然と蜂屋先生の大谷のご自坊に法話を聞きに通うようになり、ご著作にも親しむようになりました。

*

蜂屋先生はもともと真宗大学（現大谷大学）にて清沢満之先生門下で、特に貧苦、病苦、愛別離苦等の四苦八苦を舐められつつ、真摯に求道・伝道に命をかけられたお坊さんでした。それゆえにその御著作は私のような一介の悩める凡人の心の壁に染み込むように書かれており、非常に力のある書物ばかりで、これからはずっと私

の求道の伴侶となりますことは間違いないと。 「聞法の用意」 「苦の探究」 「歎異抄講話」 「蓮如上人御一代記聞書講話」 「四十八願講話」 「正信偈講話」 「幸福を求めて」等があります。

*

さらに、蜂屋先生から学びましたことは「静坐」です。腰を常にしっかりと立てること、鼻から吐く息をできるだけ長くすること、そして吐きながら丹田（下っ腹）に満身の力を入れること。これは岡田虎二郎先生が大正時代に確立されました坐・呼吸法ですが、蜂屋先生をはじめ、金子大栄、山辺習学、山口益、足利浄円といった真宗の先生方も熱心な静坐の信奉者でした。また柳田誠二郎先生（元日銀副総裁、日本航空初代社長）も熱心な静坐者で、「在家仏教」誌にもそのお話が何度か掲載されました。

私ども人間の苦悩というものは、頭の中で「あれこれ、あれこれ」と分別、執着心にとらわれている状態ではないかと思えます。これに対し、下っ腹が常に充実していることは、その自縄自縛の状態から自ずから解放され、心の平和が実現してくるのであります。静坐というものは極めて具体的にこういうように人間をせしめる、万人に開かれた尊い自然法であると存じます。

*

このような静坐法に小生も出遇い、毎日続ける習慣がつきましたことは誠に有難いことであり、まさに宝をいただいたような無上の喜びを日々感じております。それは仏法を素直に正しく受け取る静かなる態度を養ってくださり、ただただ妙なる不可思議・他力のど真ん中に、こうして身と心を得て生かさせていただけると感動する次第であります。なお静坐会は、小生も帰国のたびに各地で開いております。合掌

この一冊

『歎異抄行』 村上徳海著

泗水康一
(浄土真宗本願寺派等覚寺住職)

この書名は「たんにしようぎょう」と読みます。親鸞聖人の語録『歎異抄』の解説書はたくさんありますが、この本は解説書ではありません。著者村上徳海さんが、自分の悲しみ、苦しみ、喜び等、日々の暮らしでの体験を通して、どのように親鸞聖人の教えを受け止めておられるか、そしてそれを実践しておられるか、すなわち行(ぎょう)じておられるか、ありのままに記されたものです。

村上さんは、かつて予備校で、高校生や大学受験生に数学や物理を教えていました。予備校での最後の授業に、『仏説無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の第十八願を黑板に書き、贈る言葉とされるような方です。

そんな村上さんですが、以前は霊を信仰する宗教団体への反発から、仏教に対し憎しみさえ抱いておられたようです。それが誕生直

後の息子さんを亡くされたのをきっかけに、『阿弥陀経』を聞いて、

阿弥陀様の優しさに触れ、以後、『歎異抄』を聞思して念仏申す身となり、さらに『教行信証』を学び、唯識の講義も聞くまでになつていけます。

お釈迦さまや、親鸞さまの教えを学べば学ぶほど、地獄・餓鬼・畜生の生き方しかできない自分が無限の光と無限の命の救いはたらしの中にあることを感じないではいられない、その喜びをぜひ、周りの人にも味わってほしい、そういう気持ちからこの本は書かれています。

もとは、俳句の同人誌に二十三期にわたり、連載されたものです。から、一章ずつまとまっていて読みやすい。また、章ごとに折々の俳句が添えられていて味わいがあります。

親鸞聖人の教えに関心のある方にぜひ読んでいただきたい本です。自費出版なので、少し高くになりますが、希望者には一冊三千元で分けられるそうです。連絡先は次の通りです。〒861・1102 熊本県合志市須屋一九八八―四村上さん方。

仏教と私

先達に学ぶ

相羽 顕
(会社役員、五十七歳)

私は仏教を学ぶにおいて、在家仏教講演会に多大な影響を受けています。

まだ協和発酵工業株式会社に在籍していた時のことです。大阪会場の講演会で、京都比叡山で千日回峰行をされた葉上照澄先生のお話を伺いました。淡々とその修行を語られ、ごく普通の方のように拝見いたしました。どの世界でも「一流」と呼ばれる方は実にあっさりしているものだ、感じました。鼻にかけることなどまったくありません。

松林宗恵映画監督の「事業の業は業(ごう)。蔭で泣いている人のいることを忘れないで下さい」とのお言葉も印象に残っています。山崎龍明先生のお話。「死なな」と思うのが間違い。『今』を生きることを大切にして下さい」

鎌田茂雄先生は「一芸に達すると、心が見える」とおっしゃられ



在家仏教通信

臨時総会開催

在家仏教協会では臨時総会を九月二十八日(木)午前十一時から東京都渋谷区上原の清風クラブで開催します。総会では、定款の変更などについて審議いたします。

協会はいま、会員の皆様から幅広くご支援をいただくために「公益法人」への認定をめざしています。また、このたび、協会事務所が現在入居する渋谷区清風クラブの閉鎖が決まり、移転先をアクセスの良い千代田区にたく考えしております。これらの案件は、いづれも定款の変更が必要であり、

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。



総会で会員の三分の二のご承認をいただかなくてはなりません。八月下旬に「招集ご通知」を郵送しておりますので、ご出席いただくか、もしくは委任状の返信をよろしくお願いいたします。FAXでの返信も承っております。

会費の支払うが「コンビニでも可能に」

十月より会費の請求業務をリコーリース株式会社に委託することになりました。会員の皆様への請求書はリコーリースよりお届けいたします。

これにより、会費はコンビニでもお支払いが出来るようになります。もちろん、郵便局での支払いも従来通りです。なお、皆様の個

図書贈呈のご案内

本協会が保管している書籍を、会員のみなさまに無料でお分けします。事務局までご連絡下さい。在庫切れの場合はご容赦下さい。

「加藤辨三郎 著作」

- 一字の力 教行信証のことば
- 日日あらたに 仏教と私
- 念佛のおすすめ 念佛のおすすめ
- 「金子大榮 著作」
- 人・佛
- ありがたさについて
- 凡夫のさとり
- 念佛と人生
- 雑想観
- 「編集部 構成」

私には、仏教がある
いのちゆたかに

ました。ご自身も合気道の道場へ通っておられました。

ひろさちや先生は「森羅万象にレーゾン・デートル(存在価値)がある。だから、全てのものを肯定しましょう」とおっしゃられました。

鈴木宗忠老師(三島・龍沢寺住職)。日本に帰還した時には、「沿岸の松の木しか見えなかった。私は、サイパンの生き残りで、生かされています」。また、外国人を指導する時には『ダスキングス(ごみ箱のことらしい)、クリンクリン』と教えておられるそうです。頭の中を空白にしなさいという言葉です。

柳生新陰流の柳生延春先生は「昨日の我に今日は勝つべし」と常日頃からおっしゃっておられました。

そして、最後に、在家仏教協会の加藤辨三郎先生はよく「涅槃の真因は、ただ信心から」と話されてきました。これら、仏教を代表する大先輩の言葉を噛みしめて牛歩して行きたいと思っています。

「いのち尊し」投稿規程

- ◇随想「仏教と私」(八百字まで、または千五百字まで)
- 人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。
- ◇コラム「この一冊」(六百字以内)
- 感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は〒151-0006 東京都渋谷区上原3-32-16 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールは info@zaikebukkyo.com